

阿波高祭も終わりましたね。
去年は1日のみ、今年は3日開催、
コロナ前と比べるといろいろ様変わりはしていますが、
それでも進歩を感じます……。
来年はバザーもできるといいですね。
さあ、読書の秋です！
図書館便りを片手に、新しい本とどんどん会いましょう！



○徳島県立企画展示 ～図書委員が選ぶ、思い出の一冊～

今日は、県立図書館企画展示に阿波高校から推薦した3名の紹介文を掲載します。ぜひ、手に取って見て下さいね。

また、全クラスの図書委員さんから寄せられた紹介文は、2学期中旬に、昨年同様2階渡り廊下に展示予定です。どんな本が紹介されているのか!?お楽しみに!!!

書名 ラノベ古事記

著者名 小野寺優
出版社 KADOKAWA

3年 住友峻一郎



私の趣味を「読書」にした、この本に出会ったのは中学2年の夏休みでした。暇を持て余して本屋に出かけた私は、そこで『ラノベ古事記』を見つけました。日本の神話・歴史書として難しくとられがちな『古事記』ですが、若者でも楽しめるライトノベル風に書かれており、とても読みやすく一気に神代の世界に引き込まれていきました。

おもしろさのあまりに吹き出し、つい「なんでやねん。」とツッコミを入れてしまいそうな、個性が強すぎる日本の神々たちの物語は、私に「本っておもしろい!」と気づかせてくれました。自由すぎる神々に爆笑し、戦闘シーンでは手に汗握り、神々たちの恋愛には子供ながらにドキドキしました。最後まで読んだ後の満足感は今でも忘れられません。そして、この原文が千年以上前に書かれたことに感動しました。歴史に残る名作が、時を超え形を変え、今こうして私たちの手元にあることがとても素敵だと思える、そんな1冊です。

書名 いのちいっぱい

著者名 相田みつを
出版社 ダイヤモンド社

3年 図書委員



「いまここじぶんその合計が自分の一生」
この文はお世辞にも美しいとは言えない文字で記されていた。けれど、それを見て今までの自分を後悔するだけでなく、今から反省して、今から努力しても十分間に合うのだと勇気づけられた。

小学4年生の頃、何気ない一言で自分は人を傷つけているのだらうと、気づき始めた。しかし、直そうとしても上手くいかなかった。そうしている内に、人と話すことが好きではなくなった。そうした日々の中で、図書室で本を読むという課題が出された。文がぎっしりの本は嫌いで、「みつを」の名前に「を」が入って珍しかったのでこの本を手にとった。

何年経っても鮮明に思い出せる瞬間とは、まさにこの時だろう。この文の他にも社会人や子どもなど、幅広い世代の人の胸に響く言葉が集まっている素敵な作品だ。ぜひ、手にとってもらいたいと思う。

書名 海に見える理髪店

著者名 萩原浩
出版社 集英社文庫

2年 図書委員



穏やかな理髪店での光景を描いた小説だと思って読んでみると、こんな言葉が登場する。「じつは私、人を殺めたことがあるんです。喉に当てられた剃刀が急に冷たくなった」この部分で空気が一変する。そして最後の最後にあふれる涙。

たった40ページほど。1時間もあれば読めてしまうこの話の中に、これだけの感動を詰め込むことのできる、この作者は一体何者だともはや尊敬の念しかない。

最後の感動は「えっ、どういうこと?」という「?」マークの後に突然やってくる。謎が解けたとき、この理髪店の店主、そしてこの店を探してやって来た客の会話に隠されていた思いが、散りばめられていた伏線と共に繋がっていく。

そして、何より素晴らしい最後の2行。お互いに相手のことを分かっているのに、何も言わない憎すぎる演出。ぜひ読んで感動を味わって欲しい。

～10月からは2年生が担当します。お楽しみに。～

